

Ⅱ 調査結果の概要

1 発育状態調査結果

(1) 身長

平成24年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長(県平均値。以下同じ。)については次のとおりである。

① 前年度との比較(表1 P15)

男子の身長は、7～9歳、13～15歳、17歳で、前年度の同年齢より0.2～0.6cm増加しており、最も増加しているのは9歳と13歳の0.6cmである。10～12歳、16歳では、0.1～1.2cm減少しており、最も減少しているのは11歳の▲1.2cmである。

女子の身長は、5歳、7歳、10～14歳、16～17歳で、前年度の同年齢より0.1～0.5cm増加しており、最も増加しているのは12歳及び14歳の0.5cmである。6歳、8～9歳、15歳では、0.2～0.7cm減少しており、最も減少しているのは9歳の▲0.7cmである。

② 男女の比較(図1、表5 P19)

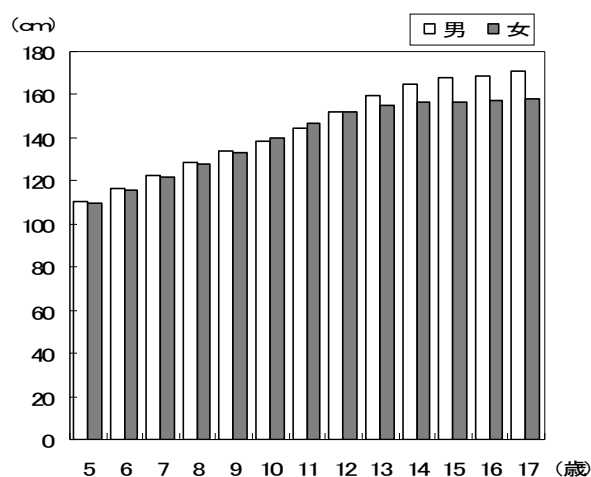
男女の身長を比べると、10～11歳で女子が男子を上回っており、11歳では2.6cm、女子が男子を上回っている。

③ 全国平均値との比較(表4 P18)

全国平均値と比べると、男子は、7～9歳、13歳で全国平均値を0.2～0.3cm上回っているが、その他の年齢では、全国平均値を0.1～1.1cm下回っている。

女子は、5歳、8歳、11～12歳で全国平均値を0.1～0.2cm上回っている。7歳、9～10歳、14歳、17歳は全国平均と同じ。6歳、13歳、15～16歳で全国平均値を0.1～0.3cm下回っている。

図1 年齢別男女別身長の平均値



(2) 体重

平成24年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の体重(県平均値。以下同じ。)については次のとおりである。

① 前年度との比較(表2 P16)

男子の体重は、5～6歳、8～9歳、12～14歳、17歳で、前年度の同年齢より0.1～0.7kg増加しており、最も増加しているのは9歳の0.7kgである。7歳、10～11歳、15～16歳では、0.1～1.4kg減少しており、最も減少しているのは11歳及び16歳の▲1.4kgである。

女子の体重は、5歳、7歳、10～12歳、14～16歳で、前年度の同年齢より0.2～1.1kg増加しており、最も増加しているのは15歳の1.1kgである。6歳、8～9歳、13歳、17歳で、0.1～0.4kg減少しており、最も減少しているのは17歳の▲0.4kgである。

② 男女の比較(図2、表5 P19)

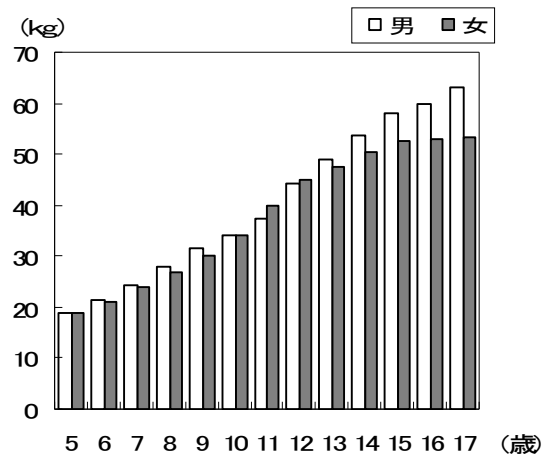
男女の体重を比べると、11歳で2.4kg、12歳で0.7kg女子が男子を上回っている。

③ 全国平均値との比較(表4 P18)

全国平均値と比べると、男子は5～10歳、12歳、17歳で、全国平均値を0.1～1.0kg上回っている。11歳、14～16歳で、全国平均値を0.5～1.4kg下回っている。

女子は、5～17歳すべての年齢で、全国平均値を0.1～1.1kg上回っている。

図2 年齢別 男女別 体重の平均値



(3) 座高

平成24年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の座高(県平均値。以下同じ。)については次のとおりである。

① 前年度との比較(表3 P17)

男子の座高は、9歳、12～14歳、17歳で、前年度の同年齢より0.1～0.6cm増加しており、最も増加しているのは13歳の0.6cmである。5歳、10～11歳、15～16歳では、0.1～0.7cm減少しており、最も減少しているのは11歳及び16歳の▲0.7cmである。

女子の座高は、5歳、7歳、11～12歳、14～15歳で、前年度の同年齢より0.1～0.5cm増加しており、最も増加しているのは11歳及び14歳の0.5cmである。8～10歳、16～17歳では、0.1～0.4cm減少しており、最も減少しているのは9歳の▲0.4cmである。

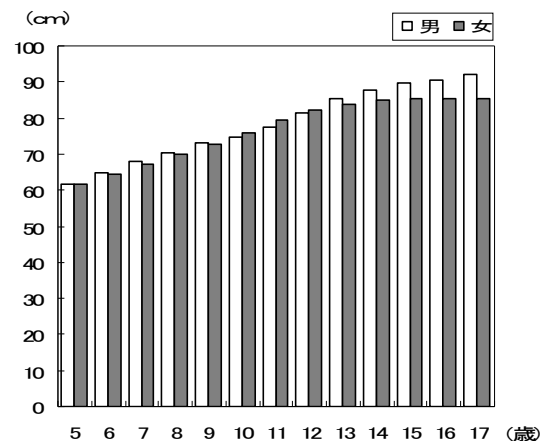
② 男女の比較(図3、表5 P19)

男女の座高を比べると、10～12歳で女子が男子を上回っており、11歳では2.0cm、女子が男子を上回っている。

③ 全国平均値との比較(表4 P18)

全国平均値と比べると、男子は7歳、9歳、12～13歳、17歳で全国平均値を0.1～0.5cm上回っている。5～6歳、11歳、14～16歳では、全国平均値を0.1～0.7cm下回っている。

図3 年齢別 男女別 座高の平均値



女子は、5～6 歳、8 歳、11～12 歳、14 歳で全国平均値を 0.1～0.2 cm 上回っている。10 歳、15～17 歳では、全国平均値を 0.1～0.4 cm 下回っている。

(4) 県平均値における 1 年間の発育量

身長・体重・座高の県平均値について、各年齢時の 1 年間の発育量を見てみると、次のとおりである。(図4、表6 P20)

① 身長

男子は、11～12 歳時に発育量が増加しており、12 歳時が最大となっている。

女子は、7 歳時及び 9～10 歳時に発育量が増加しており、10 歳時が最大となっている。

② 体重

男子は、11 歳時～14 歳時に発育量が増加しており、11 歳時が最大となっている。

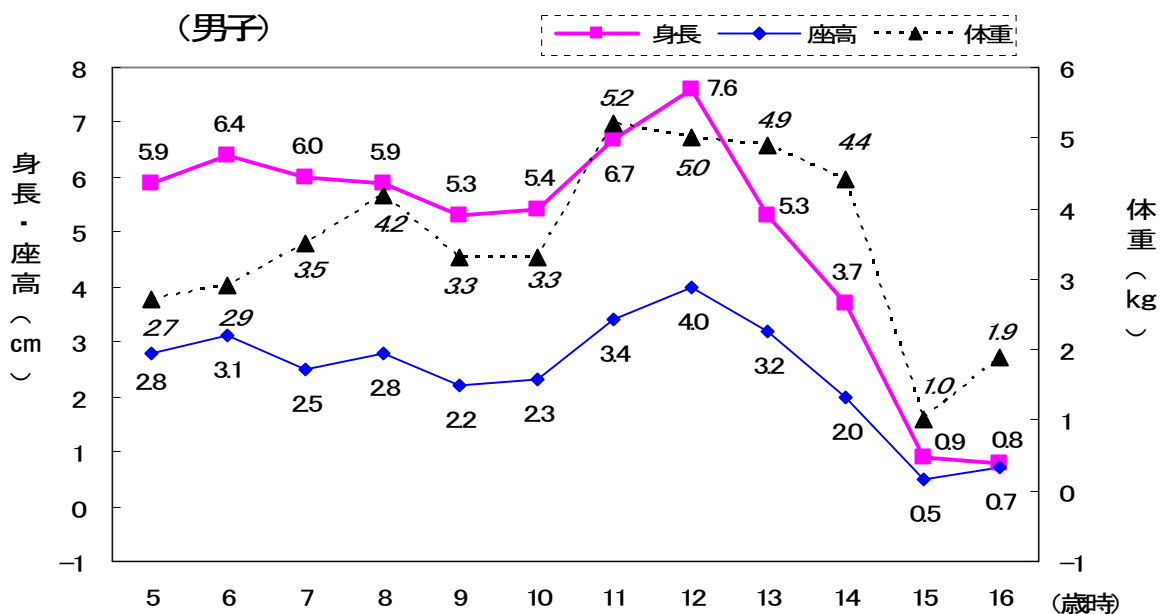
女子は、10 歳時～11 歳時に発育量が増加しており、10 歳時が最大となっている。

③ 座高

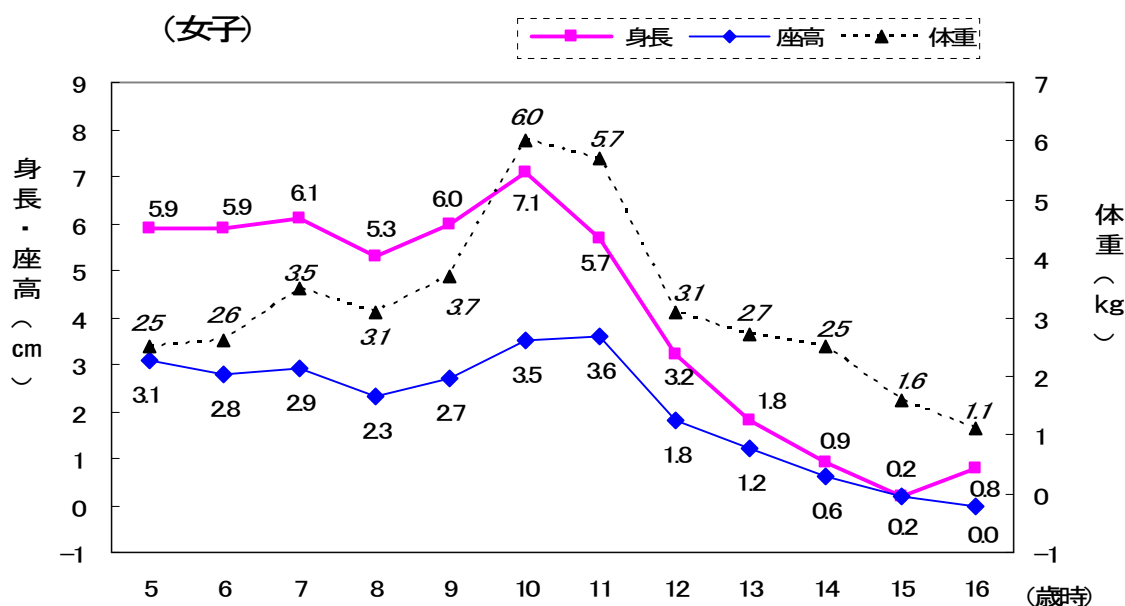
男子は、11～13 歳時に発育量が増加しており、12 歳時が最大となっている。

女子は、10～11 歳時に発育量が増加しており、11 歳時が最大となっている。

図 4 県平均値における 1 年間の発育量



注) 一年間の発育量・・・(例)5 歳児の発育量は平成 24 年度の 6 歳児の県平均値から平成 23 年度の 5 歳児の県平均値を引いた数値。



(5) 県平均値における親世代 (昭和57年度) との比較

身長・体重・座高の県平均値について、その親の世代である30年前の昭和57年度と比較してみると、男女ともに5歳の座高は親世代を下回っている。男子では5歳の身長は親世代と同じとなっている。その他は、各年齢において親世代を上回っている。(図5、図6、図7、表7 P21)

① 身長

男子の身長を比べると、最も差がある年齢は13歳で、親の世代より3.3cm高い。
 女子の身長を比べると、最も差がある年齢は10歳で、親の世代より2.3cm高い。

② 体重

男子の体重を比べると、最も差がある年齢は12歳で、親の世代より3.8kg重い。
 女子の体重を比べると、最も差がある年齢は11歳で、親の世代より3.2kg重い。

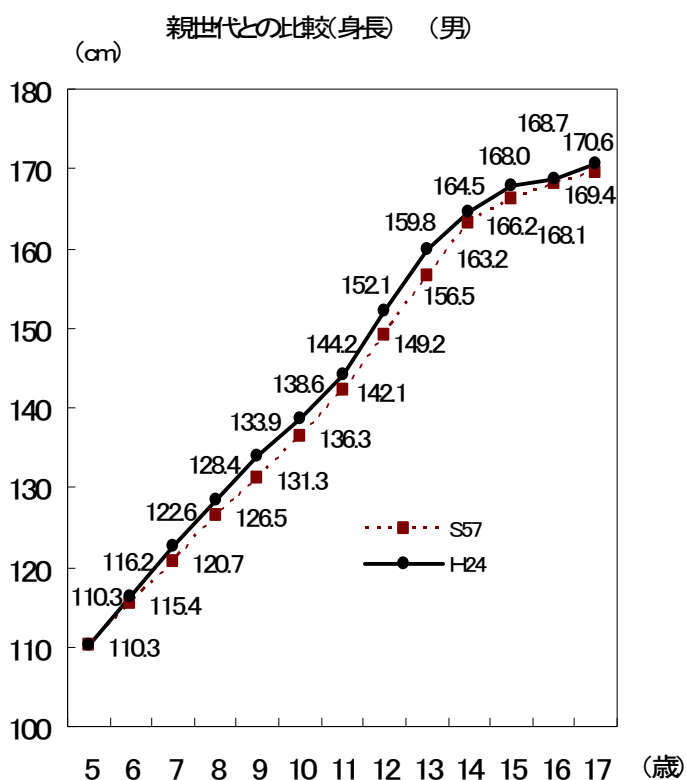
③ 座高

男子の座高を比べると、最も差がある年齢は13歳で、親の世代より2.0cm高い。
 女子の座高を比べると、最も差がある年齢は11歳と12歳で、親の世代より1.2cm高い。

なお、身長から座高を引いた足の長さ(下肢長)について比べると、男子でもっとも差がある年齢は8歳と10歳で1.4cm、女子では10歳で1.5cm親の世代より長い。

図5 県平均値における親世代との比較(身長)

| 身長 (cm) (男) | | |
|-------------|--------|--------|
| | 昭和57年度 | 平成24年度 |
| 5歳 | 110.3 | 110.3 |
| 6歳 | 115.4 | 116.2 |
| 7歳 | 120.7 | 122.6 |
| 8歳 | 126.5 | 128.4 |
| 9歳 | 131.3 | 133.9 |
| 10歳 | 136.3 | 138.6 |
| 11歳 | 142.1 | 144.2 |
| 12歳 | 149.2 | 152.1 |
| 13歳 | 156.5 | 159.8 |
| 14歳 | 163.2 | 164.5 |
| 15歳 | 166.2 | 168.0 |
| 16歳 | 168.1 | 168.7 |
| 17歳 | 169.4 | 170.6 |



| 身長 (cm) (女) | | |
|-------------|--------|--------|
| | 昭和57年度 | 平成24年度 |
| 5歳 | 109.3 | 109.7 |
| 6歳 | 114.7 | 115.5 |
| 7歳 | 120.3 | 121.6 |
| 8歳 | 125.7 | 127.5 |
| 9歳 | 131.5 | 133.4 |
| 10歳 | 137.8 | 140.1 |
| 11歳 | 144.6 | 146.8 |
| 12歳 | 150.1 | 152.1 |
| 13歳 | 153.7 | 154.8 |
| 14歳 | 155.4 | 156.5 |
| 15歳 | 155.9 | 156.9 |
| 16歳 | 156.6 | 157.5 |
| 17歳 | 156.9 | 158.0 |

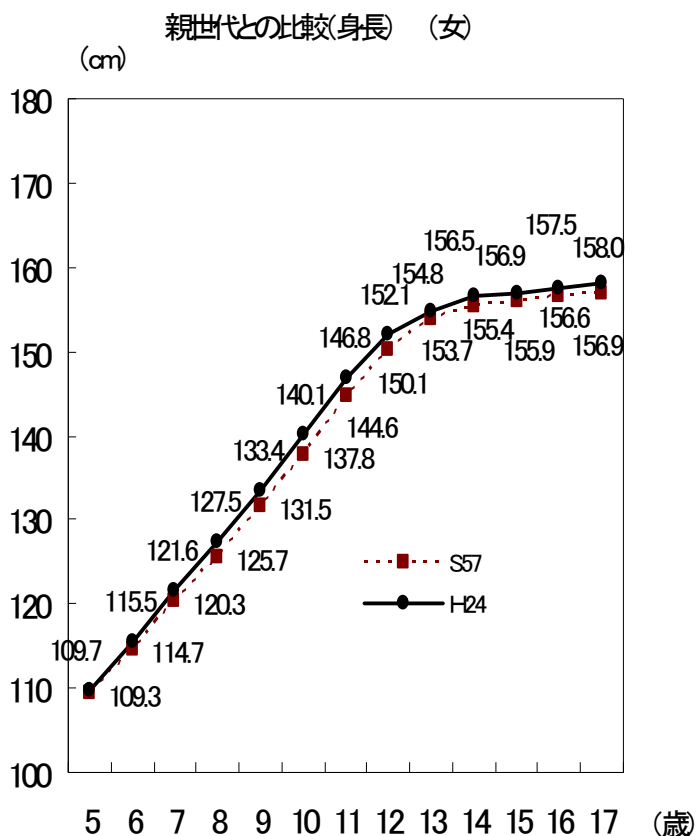
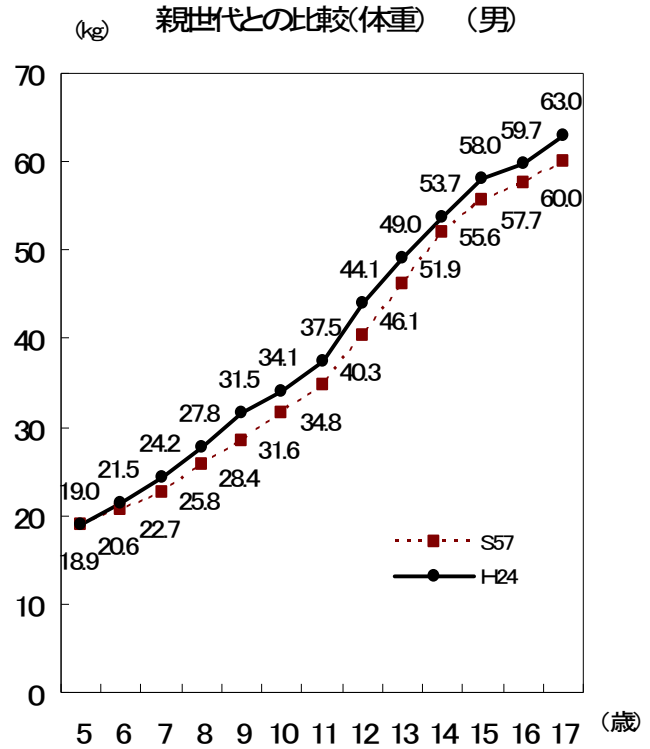


図6 県平均値における親世代との比較(体重)

| 体 重 (kg) (男) | | |
|--------------|--------|--------|
| | 昭和57年度 | 平成24年度 |
| 5歳 | 18.9 | 19.0 |
| 6歳 | 20.6 | 21.5 |
| 7歳 | 22.7 | 24.2 |
| 8歳 | 25.8 | 27.8 |
| 9歳 | 28.4 | 31.5 |
| 10歳 | 31.6 | 34.1 |
| 11歳 | 34.8 | 37.5 |
| 12歳 | 40.3 | 44.1 |
| 13歳 | 46.1 | 49.0 |
| 14歳 | 51.9 | 53.7 |
| 15歳 | 55.6 | 58.0 |
| 16歳 | 57.7 | 59.7 |
| 17歳 | 60.0 | 63.0 |



| 体 重 (kg) (女) | | |
|--------------|--------|--------|
| | 昭和57年度 | 平成24年度 |
| 5歳 | 18.3 | 18.8 |
| 6歳 | 20.3 | 21.0 |
| 7歳 | 22.5 | 23.8 |
| 8歳 | 25.5 | 26.9 |
| 9歳 | 28.2 | 30.1 |
| 10歳 | 32.3 | 34.1 |
| 11歳 | 36.7 | 39.9 |
| 12歳 | 42.2 | 44.8 |
| 13歳 | 45.6 | 47.5 |
| 14歳 | 49.1 | 50.4 |
| 15歳 | 51.0 | 52.5 |
| 16歳 | 52.2 | 53.0 |
| 17歳 | 52.6 | 53.2 |

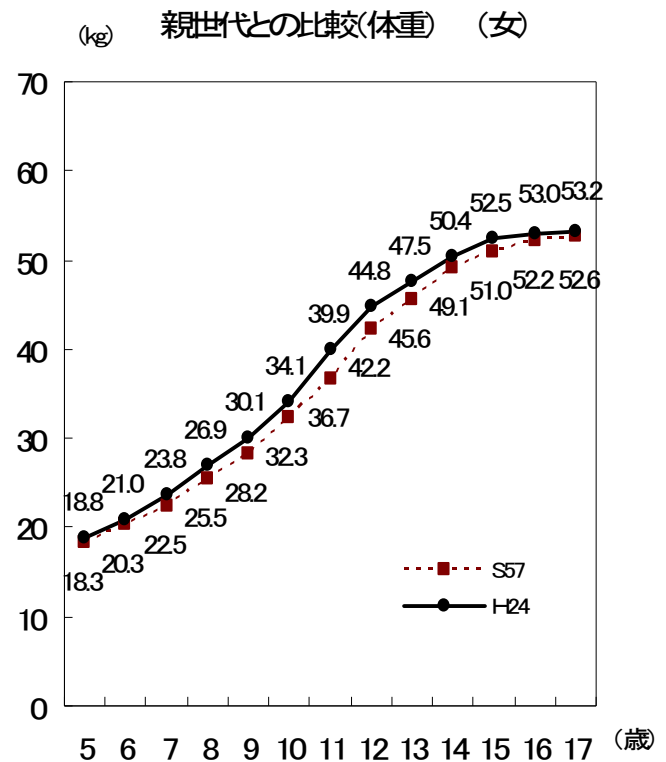
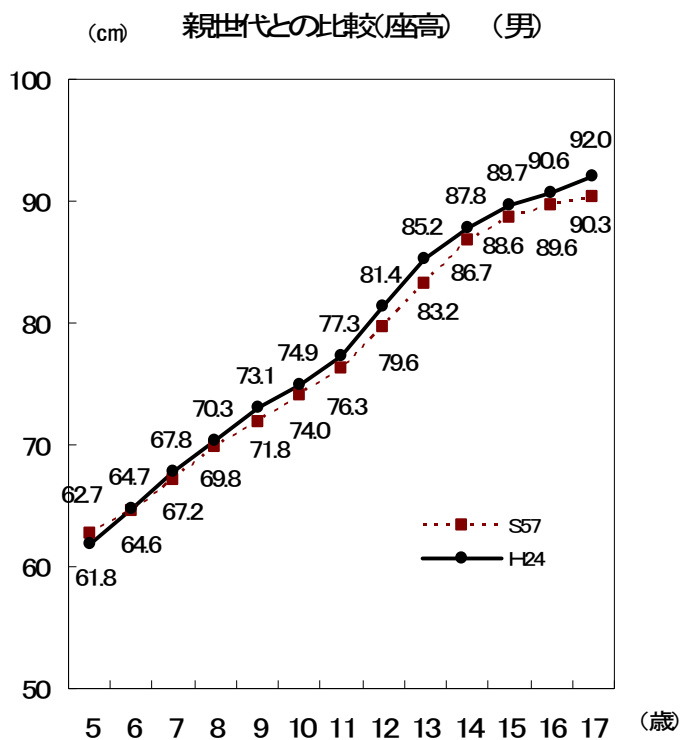
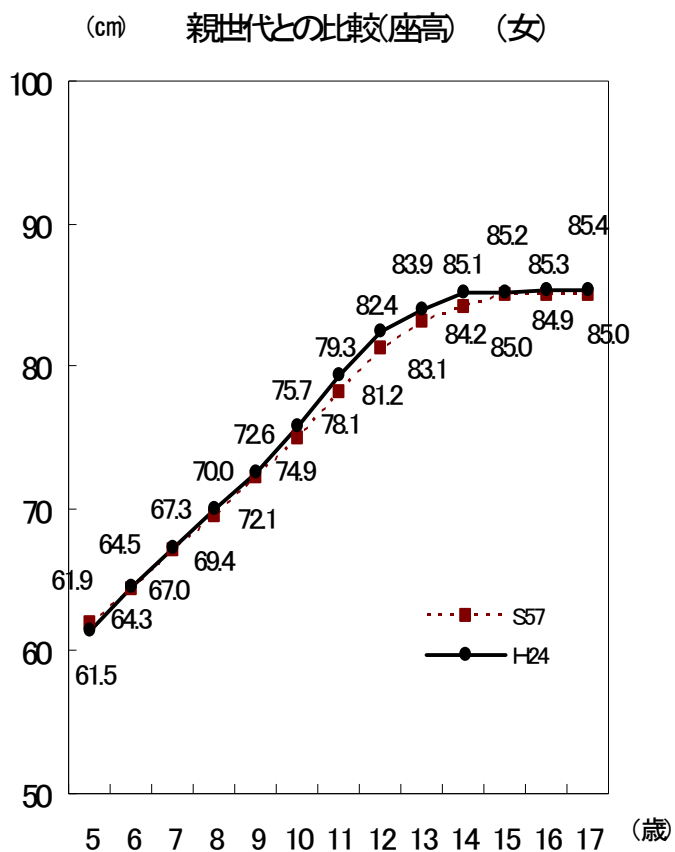


図7 県平均値における親世代との比較(座高)

| 座 高 (cm) (男) | | |
|--------------|--------|--------|
| | 昭和57年度 | 平成24年度 |
| 5歳 | 62.7 | 61.8 |
| 6歳 | 64.6 | 64.7 |
| 7歳 | 67.2 | 67.8 |
| 8歳 | 69.8 | 70.3 |
| 9歳 | 71.8 | 73.1 |
| 10歳 | 74.0 | 74.9 |
| 11歳 | 76.3 | 77.3 |
| 12歳 | 79.6 | 81.4 |
| 13歳 | 83.2 | 85.2 |
| 14歳 | 86.7 | 87.8 |
| 15歳 | 88.6 | 89.7 |
| 16歳 | 89.6 | 90.6 |
| 17歳 | 90.3 | 92.0 |



| 座 高 (cm) (女) | | |
|--------------|--------|--------|
| | 昭和57年度 | 平成24年度 |
| 5歳 | 61.9 | 61.5 |
| 6歳 | 64.3 | 64.5 |
| 7歳 | 67.0 | 67.3 |
| 8歳 | 69.4 | 70.0 |
| 9歳 | 72.1 | 72.6 |
| 10歳 | 74.9 | 75.7 |
| 11歳 | 78.1 | 79.3 |
| 12歳 | 81.2 | 82.4 |
| 13歳 | 83.1 | 83.9 |
| 14歳 | 84.2 | 85.1 |
| 15歳 | 85.0 | 85.2 |
| 16歳 | 84.9 | 85.3 |
| 17歳 | 85.0 | 85.4 |



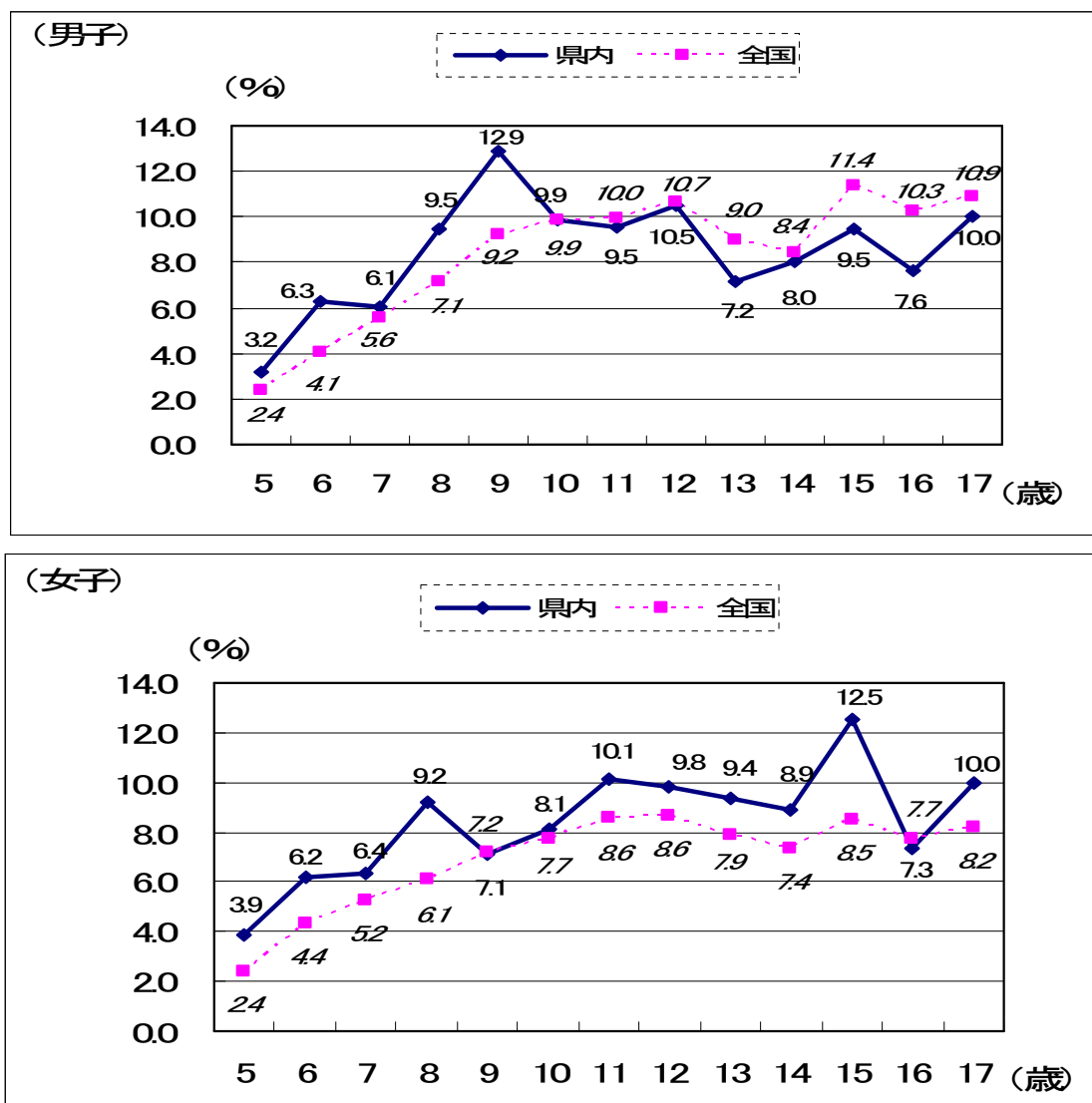
(6) 肥満傾向の者の出現率

県内における肥満傾向の者の出現率は、男子では9歳、12歳、17歳で10%を超えており、9歳が12.92%で最も高くなっている。女子では、11歳、15歳で10%を超えており、15歳が12.51%で最も高くなっている。(図8、表8 P22)

肥満傾向の者の出現率を全国平均値と比べてみると、男子は、5～9歳で全国平均値を0.5～3.7ポイント上回っている。9歳において最も大きく全国平均値の出現率を上回っており、その差は3.7ポイントである。10歳は全国平均と同率である。11～17歳では、全国平均値を0.2～2.7ポイント下回っている。16歳において最も大きく全国平均値の出現率を下回っており、その差は▲2.7ポイントである。

女子は、9歳、16歳を除くすべての年齢で全国平均値を0.4～4.0ポイント上回っている。15歳において最も大きく全国平均値の出現率を上回っており、その差は4.0ポイントである。9歳で0.1ポイント、16歳で0.4ポイント全国平均値を下回っている。

図8 肥満傾向の者の出現率の全国平均値との比較



(注) 肥満傾向の者とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。肥満度の求め方は以下のとおり。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100(\%)$$

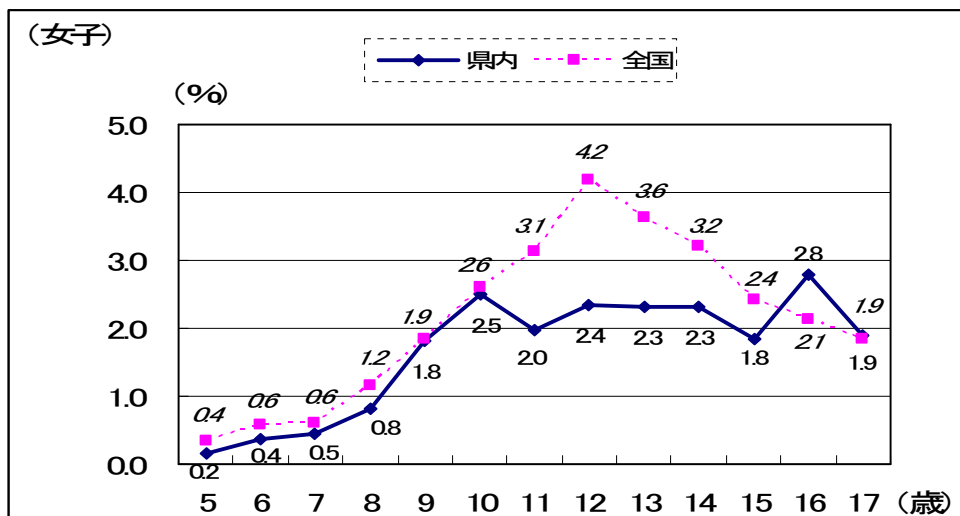
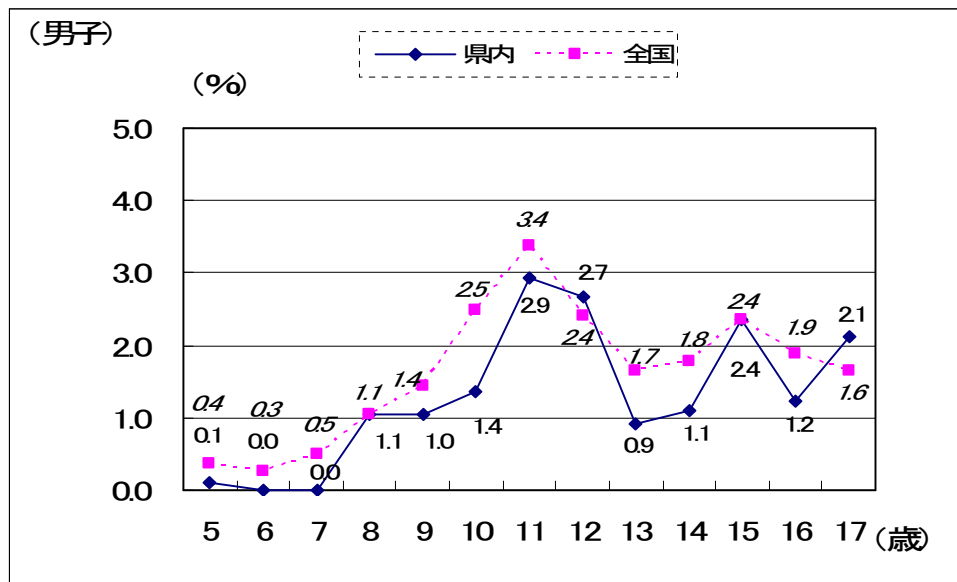
(7) 痩身傾向の者の出現率

県内における痩身傾向の者の出現率は、男子では8～12歳、14～17歳で1%を超えており、11歳の2.92%が最も高くなっている。女子では9歳～17歳で1%を超えており、16歳の2.79%が最も高くなっている。(図9、表9 P22)

痩身傾向の者の出現率を全国平均値と比べてみると、男子は、12歳で0.3ポイント、17歳で0.5ポイント全国平均値の出現率を上回っている。5～7歳、9～11歳、13～14歳、16歳では、全国平均値の出現率を0.3～1.1ポイント下回っている。10歳において、最も大きく下回っており、その差は▲1.1ポイントである。

女子は、16歳で0.7ポイント全国平均値の出現率上回っている。5～8歳、10～15歳では、全国平均値の出現率を0.1～1.8ポイント下回っている。12歳において、最も大きく下回っており、その差は▲1.8ポイントである。

図9 痩身傾向の者の出現率の全国平均値との比較



(注) 痩身傾向の者とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。肥満度の求め方は以下のとおり。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100(\%)$$

2 健康状態調査結果

学校保健統計調査では、発育状態とともに、健康状態も調査しているが、熊本県の主な特徴は以下のとおりである。

(1) 裸眼視力1.0未満の者

平成24年度の「裸眼視力1.0未満の者」の割合は、小学校28.7%、中学校54.8%、高等学校59.2%となっている。(表10、表11 P23)

「裸眼視力1.0未満の者」の割合を前年度と比べると、小学校・中学校の全ての区分において前年度を上回っている。

「裸眼視力1.0未満の者」の割合を全国平均値と比べると、中学校の「0.7未満0.3以上」及び「0.3未満」を除いて、全国平均値を下回っている。

(2) むし歯(う歯)

平成24年度の「むし歯」の者の割合(処置完了者を含む。以下同じ。)は、幼稚園46.3%、小学校64.4%、中学校58.1%、高等学校63.9%となっており、年齢別では、5歳が46.3%と最も低く、8歳が72.1%と最も高くなっている。

また、処置完了者の割合は、11歳以降、未処置歯のある者の割合を上回っている。(図10)

「むし歯」の者の割合を前年度と比べると、15~17歳を除き、その他の年齢では、前年度を下回っている。(図11)

「むし歯」の者の割合を全国平均値と比べると、すべての年齢において、全国平均値を上回っている。(図12)

図10 むし歯(う歯)の者の割合

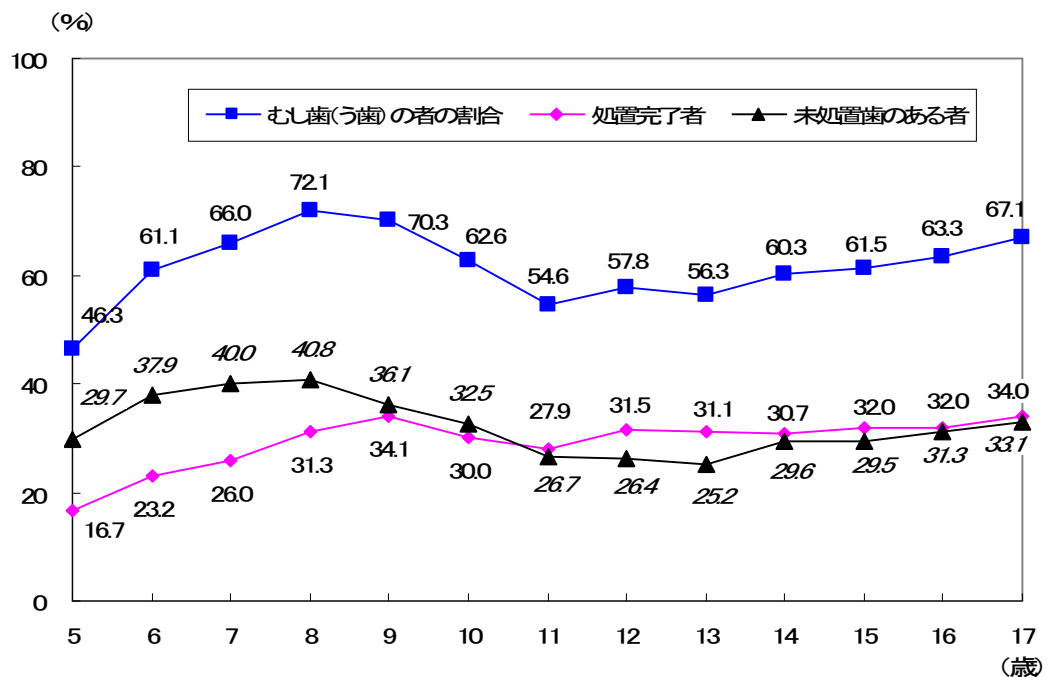


図11 むし歯(う歯)の者の割合の前年度との比較

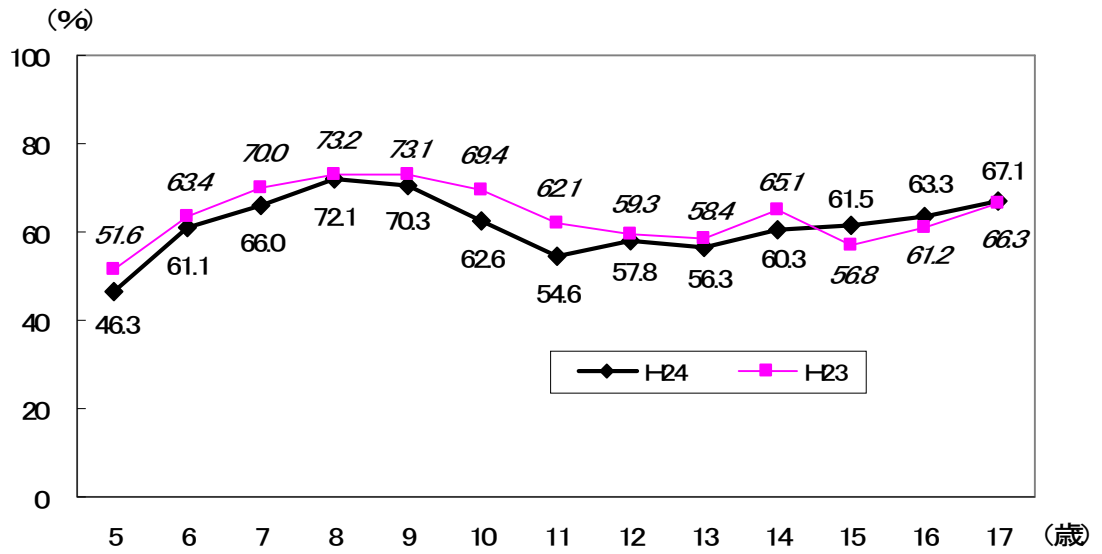
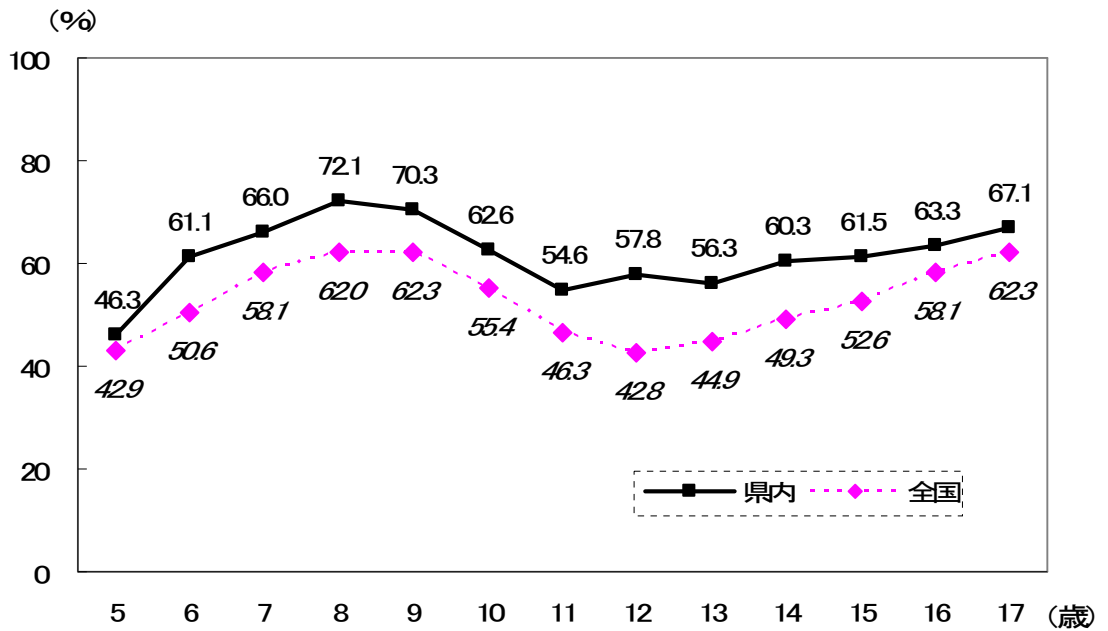


図12 むし歯(う歯)の者の割合の全国平均値との比較



(3) ぜん息

平成24年度の「ぜん息」の者の割合は、幼稚園 2.4%、小学校 3.3%、中学校 1.9%、高等学校 1.4%となっており、年齢別では、6歳、9歳が3.9%と最も高くなっている。

「ぜん息」の者の割合を全国平均値と比べると、5歳で全国平均を0.1ポイント上回っており、その他の年齢においては、全国平均値を下回っている。(図13)

図13 ぜん息の者の全国平均値との比較

